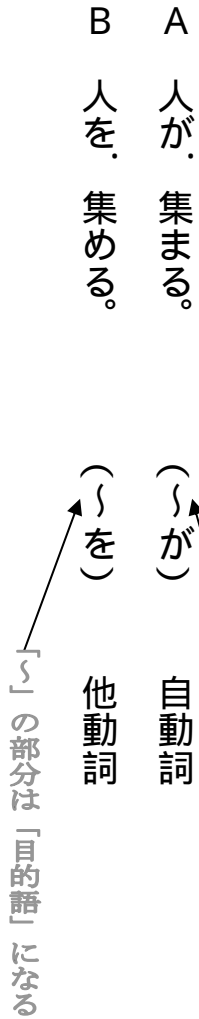


《自動詞と他動詞》

じどうし たどうし

動作...からだのうごき
作用...あるもの働きが他のもの影響をおよぼすこと

それ自身の動作・作用を表す動詞を自動詞、他への働きかけとしての動作・作用を表す動詞を他動詞という。

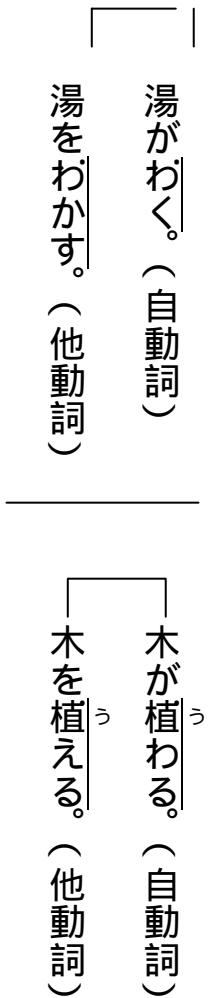


Aの「集まる」は、主語である「人」についての動作や作用を表しているのに対して、Bの「集める」は、その主語(ここでは省略されている)が他のもの(「人」)におよぼす動作や作用を表している。

「集まる」のように「何を」という対象を表す語を必要としない動詞が自動詞で、「集める」のように「何を」という語を必要とする動詞が他動詞である。

深めよう

原則として、「」が「」に続けば自動詞、「」を「」に続けば他動詞である。
自動詞と他動詞は対になることが多い。対...つりあうこと、一組のもの

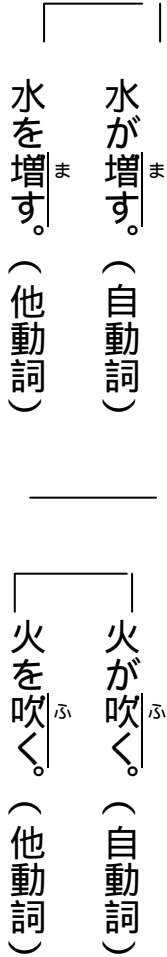


自動詞や他動詞しかない動詞。

*自動詞だけ...泳ぐ・行く・死ぬ・咲く

*他動詞だけ...打つ・聞く・飲む・投げる

同じ動詞が自動詞にも他動詞にもあるもの。

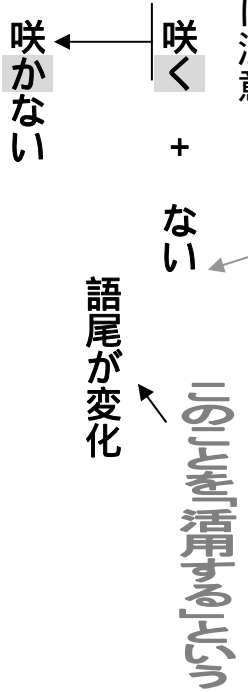


《動詞の活用の種類》

動詞…もの動作・作用・存在を表す
 形容詞…ものの性質・状態を表す語(「い」で言い切る)
 形容動詞…ものの性質・状態を表す語(「だ」で言い切る)

・用言(動詞・形容詞・形容動詞)の語尾が変化することを活用といい、語尾(が変化してできた六つの形(未然形・連用形・終止形・連体形・仮定形・命令形)の名称を活用形という。)

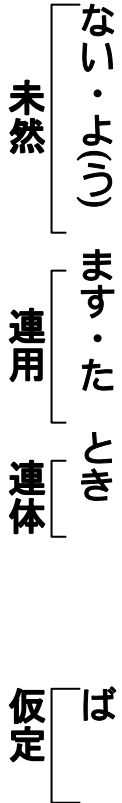
注意 「活用」と「活用形」の違いに注意!



動詞の活用のしかた(活用形の見分け方)

未然形	連用形	終止形	連体形	仮定形	命令形
「ない」に続く	「ます」に続く	言いきりの形	「とき」に続く	「ば」に続く	命令する形
咲かない。	咲きます。	咲く。	咲くとき。	咲けば。	咲け。
話さない。	話します。	話した。	話すとき。	話せば。	話せ。
起きない。	起きます。	起きた。	起きるとき。	起きれば。	起きろ。

《暗記法》 内容 マスター 時 (くれ) ば

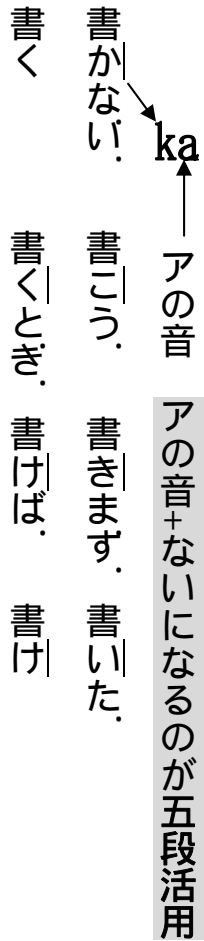


活用の種類

全部で五種類ある

五段活用

「書く」ということは、次のように活用する。



線分（語尾が活用する部分）の部分は、「か・き・く・け・こ」の五十音図の五つの段を全部使った活用である。このように**五段全部**を使った活用を、**五段活用**という。

カ行五段活用

書く	書	こ	か	い	き	く	く	け	け
基本形	語幹	未然形	連用形	終止形	連体形	仮定形	命令形		
		カ行	カ行	カ行	カ行	カ行	カ行	カ行	カ行

この場合は「書く」の語尾の「く」がカ行で変化しているので、**カ行五段活用**という。

行と段の説明

左の表の五十音表で上から下へ読んだものが「行」

横に読んだものが「段」である。

	(ア段)	わ	ら	や	ま	は	な	た	さ	か	あ
ア段とは「あかさたなはまやらわ」のこと	(イ段)	い	り	い	み	ひ	に	ち	し	き	い
イ段とは「いきしちにひみいりい」のこと	(ウ段)	う	る	ゆ	む	ふ	ぬ	つ	す	く	う
ウ段とは「うくすつぬふむゆるう」のこと	(エ段)	え	れ	え	め	へ	ね	て	せ	け	え
エ段とは「えけせてねへめえれえ」のこと	(オ段)	を	ろ	よ	も	ほ	の	と	そ	こ	お
オ段とは「おこそとのほもよろを」のこと	(ワ行)	……	……	……	……	……	……	……	……	……	……
	(ラ行)	……	……	……	……	……	……	……	……	……	……
	(ヤ行)	……	……	……	……	……	……	……	……	……	……
	(マ行)	……	……	……	……	……	……	……	……	……	……
	(ハ行)	……	……	……	……	……	……	……	……	……	……
	(ナ行)	……	……	……	……	……	……	……	……	……	……
	(タ行)	……	……	……	……	……	……	……	……	……	……
	(サ行)	……	……	……	……	……	……	……	……	……	……
	(カ行)	……	……	……	……	……	……	……	……	……	……
	(ア行)	……	……	……	……	……	……	……	……	……	……
	(ワ行)	……	……	……	……	……	……	……	……	……	……
	(ラ行)	……	……	……	……	……	……	……	……	……	……
	(ヤ行)	……	……	……	……	……	……	……	……	……	……
	(マ行)	……	……	……	……	……	……	……	……	……	……
	(ハ行)	……	……	……	……	……	……	……	……	……	……
	(ナ行)	……	……	……	……	……	……	……	……	……	……
	(タ行)	……	……	……	……	……	……	……	……	……	……
	(サ行)	……	……	……	……	……	……	……	……	……	……
	(カ行)	……	……	……	……	……	……	……	……	……	……
	(ア行)	……	……	……	……	……	……	……	……	……	……

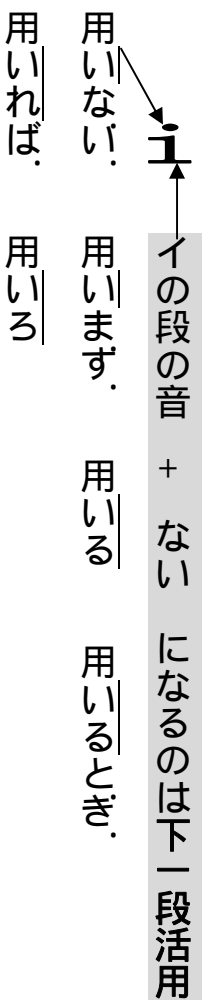
書く	書	こ	か	い	き	く	く	け	け
基本形	語幹	未然形	連用形	終止形	連体形	仮定形	命令形		

イイウマ マス・タ 言いきり トキ バ 命令の形

この場合は「書く」の語尾の「く」が力行で変化しているので、力行五段活用という。

上二段活用

「用いる」という語は、次のように活用する。



の部分（語尾が活用する部分）は、すべて「い」で始まっている。

このように、五十音図の「イ段」だけで終始している活用を、上二段活用という。

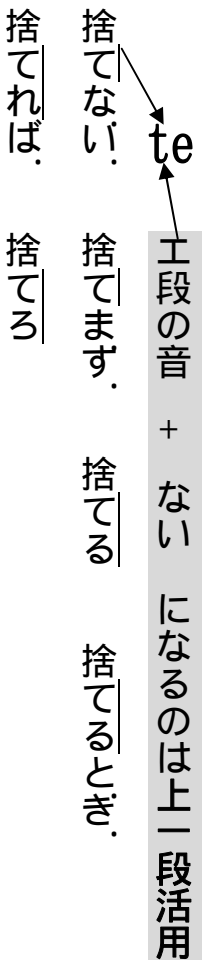
用いる	用	い	い	いる	いる	いれ	いよ
基本形	語幹	未然形	連用形	終止形	連体形	仮定形	命令形

この場合は「用いる」の語尾の「いる」がア行のイ段で活用するので

活用の種類はア行上二段活用という。

下二段活用

「捨てる」という語は、次のように活用する。



の部分（語尾が活用する部分）は、すべて「て」で始まっている。

このように、五十音図の「エ段」だけを使っている活用を、下二段活用という。

捨てる	捨	て	て	てる	てる	てれ	てよ
基本形	語幹	未然形	連用形	終止形	連体形	仮定形	命令形

「捨てる」は「てる」の部分タ行で活用するので、タ行下一段活用になる。

「見る」という言葉は、次のように活用する。

見ない・ 見ます・ 見る 見るとき 見れば 見ろ

線の上の「見」という言葉が、「見る」という言葉が、「見れ」になり、「見ろ」になった、つまり活用されたのである。こうした語を、**語幹・語尾の区別のつかない語**という。

語幹・語尾の区別のつかない語は、上一段活用の「射る・居る・着る・似る・見る」や下一段活用の「得る・出る・寝る・経る」である。これらの語は、「二字(二音)で構成されている言葉である。

力行変格活用(力変)

「来る」という語は、次のように活用する。

来^こない・ 来^きます・ 来^くる 来^くるとき 来^くれば 来^こい

線の部分(語尾が活用する部分)は、力行「こ・き・く」の三つの段に活用し、その順序は変則的である。そこで、このような活用を、**変格活用**といい、**力行のもの**なので、**力行変格活用**、略して、**力変**という。

—線部が「か・き・く・け」のなかで活用する

*順序が変則的 五段活用のようにア段から順番にイ・ウ・エ・オと続かない。

力変の場合は才段 イ段 ウ段の順になる

力変の動詞は、この「来る」だけである。

来る	基本形	語幹	未然形	連用形	終止形	連体形	仮定形	命令形
			こ	き	くる	くる	くれ	こい

語幹はないという意味

サ行変格活用（サ変）

「する」という語は、次のように活用する。

(ア段) させる・しない・せぬ
 (イ段) しませぬ
 (ウ段) します
 (エ段) する
 (オ段) するとき

(ウ段) すれば
 (イ段) しろ

線の部分は「さ・し・す・せ」四つの段に活用し、その現れる順序は、変則的である。こうした変則的な活用を、変格活用といい、これがサ行のものなので、サ行変格活用、略して、サ変という。この場合は、語幹と語尾の区別がつかない。
―線部が「さ・し・す・せ」のなかで活用する

* 順序が変則的 五段活用のようにア段から順番にイ・ウ・エ・オと続かない。

サ変の場合はア段 イ段 エ段 イ段 ウ段 ウ段 ウ段 イ段の順になる。

サ変の動詞は「する」だけであるが、動きを伴う名詞に「する」が付いた場合、複合動詞となり、それらの活用はサ変となる。したがって、複合動詞のサ変はたくさんあることになる。

うわさする・運動する・リードする・決けつする・愛する・勉強する

基本形	する		未然形	連用形	終止形	連体形	仮定法	命令形
	語幹	○						
おもな用法			せ	し	する	する	すれ	しろ せよ
			「ない」「せ る」「ぬ」に 連なる	「ます」「た」 に連なる	言い切る	「とき」に 連なる	「ば」に連 なる	命令的に 言いきる

活用の種類の見分け方

動詞の活用は五種類あるが、そのうち、変格活用は「来る」「する」のそれぞれ一語だけなので、それらを除き、残りの三種類の動詞の活用を見分けなければよいことになる。活用の種類を見分けるには、動詞に「ない」という助動詞を続けさせ、「ない」の上の語が何段かの音かで決める。

動詞+「ない」	「 <u>く</u> する	(例、運動する・勉強する)	サ変
ア段の語+ない……動か <u>な</u> い	眠ら <u>な</u> い		五段活用
イ段の語+ない……起き <u>な</u> い	閉じ <u>な</u> い		上一段活用
エ段の語+ない……助け <u>な</u> い	乗せ <u>な</u> い		下一段活用
	来る		カ変

* 変格活用は「する」「来る」のそれぞれ一つずつなので、覚えてしまおう。